

1 出典：(【文章Ⅰ】・【文章Ⅱ】・【文章Ⅲ】)宮坂道夫『対話と承認のケア—ナラティブが生み出す世界』

問一は選択肢問題です。傍線部(1)の内容を適切かつ詳しく言い換えた表現を一つ選びます。イが正解になります。ア「…一般論は、…浸透しきれていない」、ウ「医師は…患者の生活機能の領域や人生史についての…身に付けている」、エ「…『問診』を行っているので、…聞きだすことに苦労はなく」がそれぞれ誤りです。

問二は三行記述問題です。傍線部(2)より、「疾患」と「病い」の違いを説明します。本文のここまでの内容から、「疾患」とは「問診や検査結果などの情報を医学的な知識体系と照らし合わせて診断したもの」、「病い」とは「患者が五感を通して感じ、その意味を自分なりにとらえたもの」、これら二点を書けば正解となります。

問三は四行記述問題です。【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を踏まえて、患者が傍線部(3)から・傍線部(4)へ変化した理由をまとめます。ここで問われているのは、医師が患者に対し「医学的ナラティブ」から「解釈的ナラティブ・アプローチ」へと変わったことです。従って、「検査結果や治療方針などの医学的ナラティブにもとづく話」→「治療に対する患者の納得できない気持ちをくみとり、CT 検査を提案した」という要素を取り出すことができれば正解になります。

問四は【文章Ⅱ】の波線部 a～f の中から、本文で中心となる「ナラティブ・アプローチ」(ここでは「解釈的ナラティブ・アプローチ」)に相当する会話文を二つ抜き出す問題です。患者の納得できない気持ちを推察して考えよう(患者の視点で病像を理解しよう)としている二つを選びます。正解は c と d です。a も b も患者に明確な言葉で述べているので当てはまりません。e は単に患者の考えを聞くだけの質問なので当てはまりません。f は患者に最終的な決断を直接求めている箇所なので、これも当てはまりません。

問五は二行記述問題です。【文章Ⅲ】傍線部(5)より、「ケアする側とケアされる側が真に同じ地平に立てるための要件」をまとめます。【文章Ⅲ】では、ロボットが「いずれ死んでしまう存在」であるほうが、そうでないロボットより患者は耳を傾けてくれるという説明の後、「ケア者の側の死の可能性が、病いを抱える人へのケアを真に成り立たせる要件」という箇所が出てきますから、これらをまとめて書けば正解となります。

問六は脱文補充問題です。《つまり、いずれ壊れてしまう…、この仮説である。》を入れる箇所は、《え》になります。次の段落冒頭に「もしもこの仮説が正しければ、…」とあるので、そこにつながっていきます。

問七は接続語問題です。Aは逆接の「しかし」、Bは順接の「したがって」、Cは言い換えの「つまり」、Dは対比の「これに対して」がそれぞれ入ります。

問八は漢字問題です。ア「投入」、イ「適否」、ウ「改善」、エ「補」、オ「来歴」です。楷書で丁寧に書く練習を日頃からしておきましょう。

問九は内容一致問題です。【文章Ⅰ】と【文章Ⅲ】の内容に合うものを一つ選びます。正解はエです。アは「自分の経験に基づいた一般論に流されがち」、イは「ケアされる側にも深い人間理解が求められている」、ウは「『気づかい』…基盤としているため、ヘルスケアについては限界がある」、がそれぞれ誤りです。

2 出典：高瀬隼子『新しい恋愛』

問一は選択肢問題です。傍線部(1)より、「知星」が「ロマンチックが嫌」と考える理由として最もふさわしいものを一つ選びます。正解はウです。ア「一緒に住んで生活をともにする準備を真剣に進めてほしい」、イ「飾り気のない素直な言葉であるべきだ」、エ「制御の外に出してしまう自分自身をようやく受容できるようになり」、がそれぞれ誤りです。

問二は三行記述問題です。傍線部(2)から、「知星」は「美寧々」のどういう点に「感心」したのかを説明します。「美寧々」は「はっとした表情を浮かべて」「結婚はしないままっていう関係を選ぶ人もいる」ということを言い添えます。つまり「美寧々」は、自分の中学、家での姉や義兄たちの会話、「美寧々」が触れるコンテンツからのメッセージ、これらからすでにそのことを学んでいるのだろう、と「知星」は理解したのです。これらをまとめれば正解になります。

問三(一)は語句問題です。傍線部(3)「頭を巡らせた」は、「あれこれと考えを働かせた」のエが正解です。(二)は「頭」を使った慣用句やことわざについて、空欄に入れるひらがなを書く問題です。「頭をI」には「かかえる」、「頭がII」には「さがる」、「頭隠してIII隠さず」には「しり」、「頭IV」には「ごなし」がそれぞれ入ります。

問四は三行記述問題です。傍線部(4)から「知星」の気持ちを説明します。大人の「知星」が子どもの「美寧々」に「諭されている」という表現から、「恥ずかしい」「情けない」などの心情が読み取れます。そしてそれは「美寧々」に「『遥矢』の言葉は好きを好き以外の言葉で言い換えているだけなので、ロマンチックすぎるなどと嫌がらず素直に受け止めるべきだ」という正論をはっきりと言われてしまったからです。ここをまとめれば正解です。

問五は四行記述問題です。傍線部(5)の「今一番新しい恋愛」について、そうではない恋愛と比較しながら説明します。「美寧々」の会話文から、「美寧々」は、「出会う前から条件を設定して、条件が合う人とだけ出会うマッチング恋愛」ではなく、「条件は設定せず、相手を大切に思う気持ちをしかりと伝え、直接広く出会いながら、本当にその人と一緒に生活したいと思える人が見つければ関係を深める恋愛」を求めていることがわかります。これらをまとめれば正解になります。

問六は選択肢問題です。傍線部(6)から、「知星」の心情を読み取ります。「覚悟を決めて美寧々に同意」というのは、本音を言うと将来のある「美寧々」を否定することになるので、あえて「同意した」と読むことができます。従って正解はイです。ア「…心に浸透しているわけではないために、…」、ウ「長く生きてると『条件の設定』へと移行することに気づくはずだが」、エ「『今一番新しい』という恋愛の仕方を実践しているので、…尊重する方が、大人として正しい態度」、がそれぞれ誤りです。

問七は擬音語・擬態語等の語句問題です。Aは「ぼかんとわたしをみつめた。」、Bは「美寧々の目がぱっと輝いた。」、Cは「きっぱりとした口調だった。」、Dは「友人同士のようなカラッとした空気がある」となります。

問八は内容一致問題です。正解はエです。アは「『新しい恋愛』のあり方が人々の間にもっと浸透すべきだと強く感じた」、ウは「改めて恋愛を学び直そうと思った」、がそれぞれ誤りです。イは「『知星』は…考えたこともなかったことに気づき、深くため息をついたあと、…」は誤りです。「ため息」をついたのは「美寧々」です。